

ハイライト

- ・2013 年度
時間学公開学術シンポジウム
「〈夜〉の文化史」

目次：

- ・時間学公開学術シンポジウム
「〈夜〉の文化史」 1
- ・青山准教授、YCAM「TECHTILE」
集中ワークショップで講演 2
- ・時間学特別セミナー
「同期現象から考える時間学」 2
- ・時間学セミナー
「生物の発生と進化の時間学」 2
- ・平成 25 年度科研費に
2 件が新規採択 3
- ・山田祐樹助教が日本基礎心理
学会「優秀発表賞」 3
- ・明石教授のコメントが
毎日新聞に掲載 3
- ・「体内時計を医療に応用」が
日本経済新聞に掲載 3
- ・所長室より 3
- ◆お知らせ◆ 4
時間学国際シンポジウム 2013
「幸福とは何か
ー心理・文化・時間ー」

2013 年度時間学公開学術シンポジウム 「〈夜〉の文化史」を開催

去る平成 25 年 6 月 8 日、山口大学吉田キャンパス大学会館にて時間学公開学術シンポジウム「〈夜〉の文化史」を開催いたしました（日本時間学会との共催）。



約 200 名の参加者が集った中、まず時間学研究所・進士正人所長の挨拶があり、司会の宮崎真教授（時間学研究所）、コーディネーターの右田裕規講師（同）の進行で、近森高明先生（慶應義塾大学准教授）、小山恵美先生（京都工芸繊維大学准教授）の順でご講演いただきました。



右田講師

どちらも照明というテクノロジーに着目しつつ夜の文化の歴史的多様性を剔抉した刺激的な講演で、まず近森先生からは近代の状況について社会学的視座から知見が提起されました。進歩的・計画的なニュアンスで語られることの多い電灯技術の普及史が微視的には様々な主体の様々な思惑・運動によって重層的に決定されていたこと、明るい夜という現代的状況とは

実のところきわめて無秩序で前近代的な思考・運動のもとに生成されてきたことを精緻に論じられました。



近森先生

続いて小山先生からは、平安期の夜の暮らしぶりや睡眠習慣を当時の灯りの再現実験や日記文学などを手がかりにしつつ再構築した研究報告がありました。概日リズムと光環境の相関を理論的枠組みとしつつ、古代の日本人がどのように夜の世界を感じ、過ごしていたかを生物学・工学的視点から鮮やかに再現し、多くの観衆を惹きつける斬新な夜の歴史をご提示いただきました。

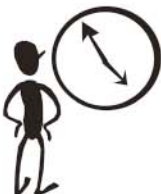


小山先生

講演後には、右田講師を交えたパネルディスカッション、並びに会場参加者との質疑応答が行なわれ、辻正二日本時間学会会長の閉会の辞をもって会は盛況のうちに閉じました。

時間学研究所ニュースレター
2013 年度第 1 号をお届けします。
今回は時間学公開学術シンポジウム「〈夜〉の文化史」の報告を中心にお届けします。

《時間学研究所》
〒753-8511
山口市吉田 1677-1
TEL/FAX083-933-5848
jikann@yamaguchi-u.ac.jp
www.rits.yamaguchi-u.ac.jp



青山准教授、 YCAM「TECHTILE」 集中ワークショップにて講演

平成 25 年 3 月 9～10 日、山口情報芸術センター [YCAM] と慶應義塾大学が 2011 年度から取り組んできた「触感づくり（触感を積極的に取り込んだ表現）」のための研究開発プロジェクト「TECHTILE（テクタイル）」の 1 つの節目として、集中ワークショップが開催されました。

<http://www.ycam.jp/education/2013/03/ycam-interlab-camp-vol2-techtile.html>

本研究所の青山拓央准教授は、二日目のパネルディスカッション・セッション 2「触感×言語」に、松井茂助教（東京芸術大学）、門林岳史准教授（関西大学）とともに登壇し、主観的でプライベートな感覚である“触覚”を人に伝えて公共化・客観化しようとする試みの面白さ、そしてそれを実現するためには何か必要かについて、アリストテレスの著書『心とは何か』での感覚論の引用や、言語との対比から論じました。



アリストテレスの著書『心とは何か』を手に、人間の感覚について論じる青山准教授（登壇者一番左）

時間学特別セミナー 「同期現象から考える時間学」 を開催

3 月 27 日（水）、常盤キャンパス工学部社会建設工学科 1F 会議室にて、時間学研究所客員教授の蔵本 由紀 先生（京都大学名誉教授）甲斐 昌一 先生（九州大学名誉教授）をお迎えして、時間学特別セミナー「同期現象から考える時間学」を開催しました。



蔵本先生



甲斐先生

発表演題は以下の通りです。

- ・『シンクロ現象の発見』蔵本 由紀（京都大学名誉教授）
- ・『リズムとノイズ』甲斐 昌一（九州大学名誉教授）

蔵本先生からは、自然界の物理現象や生命現象を「同期現象」から総合的に理解する試みを先生の考案された蔵本モデルを軸に解説して頂きました。甲斐先生からは、ノイズを与えることで生体の感覚精度が向上する「確率共鳴」という不思議な現象を解説して頂きました。

第 26 回時間学セミナー 「生物の発生と進化の時間学」 を開催

3月22日（金）吉田キャンパス理学部 14 番教室にて、時間学第 2 研究グループ（リーダー：理学部教授 岩尾康宏）による、第 26 回時間学セミナー「生物の発生と進化の時間学」を開催しました。



開会挨拶をする岩尾教授

発表演題は以下の通りです。

- ・『酵母ミトコンドリアの形態形成とアルデヒド脱水素酵素の発現』井内 智美・宮川 勇（理工学研究科 環境共生）
- ・『摂食による概日時計立位調節に関わる因子の研究』明石 真（時間学研究所）
- ・『ツメガエル幼生のシャドウレスポンスにおけるセメント腺の役割』原田 由美子（理工学研究科 環境共生）
- ・『脊椎動物における発生開始機構の進化』岩尾 康宏（医学系研究科 応用分子生命科学）

第 2 研究グループは主に生物学領域の研究者で構成されていますが、扱う研究対象はきわめて多岐に渡っています。今回のセミナーの発表内容も、微生物・両生類・哺乳類などのように扱う動物種が多岐にわたる一方で、迅速な生体反射の研究から発生における進化の研究に至るまで、扱う時間スケールも幅広い議題が発表されました。素朴な疑問から専門的な質問まで幅広い質疑応答が交わされ、異なる領域の研究者の情報交換・交流の場となりました。



平成 25 年度科研費に 2 件が新規採択

平成 25 年度科研費に本研究所から以下の 2 件が新規採択となりました。

- ・ 基盤研究 (A) 「身体知覚の時空間的適応性の神経機序」
研究期間：平成 25～28 年度
研究代表者：宮崎 真 教授
- ・ 若手研究 (B) 「天皇の祝祭をめぐる商品市場編成に関する歴史社会学的研究」
研究期間：平成 25～26 年度
研究代表者：右田 裕規 講師

山田助教が日本基礎心理学会 「優秀発表賞」に内定

山田祐樹助教が日本基礎心理学会第 31 回大会にて、以下の研究発表で優秀発表賞に内定しました。

山田祐樹¹、河邊隆寛²、宮崎真¹、パタンランダムネス残効、日本基礎心理学会第 31 回大会、九州大学（福岡市）、2012 年 11 月 3 日。

1. 山口大学時間学研究所
2. NTT コミュニケーション科学基礎研究所

平成 25 年 12 月 7～8 日に金沢市文化ホールで開催される日本基礎心理学会第 32 回大会で授賞式が催されます。

明石教授のコメントが 毎日新聞に掲載

本研究所の明石真教授のコメントが“体の中にも正しい「時」を”という記事にて毎日新聞（平成 25 年 4 月 16 日朝刊 15 面）で掲載されました。

また、記事中の『毛根で乱れ測定』にて、明石教授の開発した「毛根から時計遺伝子の振舞を測定する手法」と、その医療応用へ向けた展望も紹介されています。

「山口大時間学研究所 体内時計を医療に應用」 が日本経済新聞に掲載

日本経済新聞の“知の明日を築く”のコーナーにて「山口大時間学研究所 体内時計を医療に應用」と題する記事が掲載されました（平成 25 年 4 月 11 日朝刊）。

<http://www.nikkei.com/article/DGXZ053843430R10C13A4TCQ000/>

また、日本経済新聞の web 版では、「時間学、幸せになるヒント追う」という題目で進士所長のインタビューも掲載されております。

http://www.nikkei.com/article/DGXNASGG0700V_Y3A400C1000000/

所長室より

平成 25 年度最初の「山口大学時間学研究所ニュースレター」をお届けします。

昨年度から時間学研究所の所員や関連の研究者と様々な意見交換をする中で、私自身より幅広い見方ができることを教えられました。

今年も国内外からさまざまな研究者をテーマに合わせてお招きし研究者間の意見交換・意見交流をはかる予定です。すでに、「時の記念日」にあわせ日本時間学会総会および自由報告会が 6 月 8、9 日に山口で開催され、その中で近森先生（慶応義塾大学）、小山先生（京都工芸繊維大学）をお招きし、時間学公開シンポジウム「夜」の文化史を実施しました。これに引き続き 7 月 26 日には、「幸福とは何か」をテーマに国際シンポジウムを山口市内で開催いたします。また、今年度後半には、アフタヌーンセミナーを東京および福岡で開催する予定で、その準備をすでに開始しております。併せて、特別セミナーも企画しておりますので、適宜皆様にご案内いたします。是非積極的にご参加くださるようお願い申し上げます。

今後とも応援よろしくお願いたします。

（進士正人）

山口大学時間学研究所 2013年度国際シンポジウム 「幸福とは何か ー心理・文化・時間ー」

●日時

2013年7月26日(金) 15:00-18:00 (開場14:00)

●会場

ニューメディアプラザ山口・多目的シアター (山口市熊野町 1-10 TEL 083-921-1125)
※入場無料・予約不要 (定員200名)

●概要

心理学と国際文化比較の観点から、幸福についての学問的な知見を、分かりやすくお話し頂きます。海外から見た日本の幸福観、そして日本から見た海外の幸福観についても、ディスカッションをする予定です。みなさまのご参加をお待ちしております。

●講演

大石 繁宏 教授 (ヴァージニア大学心理学部)

「幸福研究の最前線
ー文化・社会心理学的視点からー」

紹介: 社会心理学・文化心理学・パーソナリティ心理学の観点から、幸福について研究。専門論文のほか、著書に『幸せを科学する』(新曜社)。



ミシェル・ドボアシユ 准教授 (岡山大学文学部)

「サシャ・ギトリの戯曲と映画に
おける幸福感」

紹介: 日本とフランスの近現代文学について研究。とくに、大岡昇平の戦争文学と、大岡昇平に対するフランス文学の影響に関して論文を発表。



●コーディネーター (企画・司会)

青山 拓央 准教授 (山口大学時間学研究所)

紹介: 哲学の観点から、言語・自由・時間・心身関係について研究。著書に『分析哲学講義』(筑摩新書)など。

幸福とは何か

心理学と国際文化比較の観点から、幸福についての学問的な知見を、分かりやすくお話し頂きます。

海外から見た日本の幸福観、そして日本から見た海外の幸福観についても、ディスカッションを予定しています。

山口大学時間学研究所
2013年度国際シンポジウム

2013
7/26 [金]

15:00-18:00 (開場14:00)
ニューメディアプラザ山口 多目的シアター
山口市熊野町1-10 tel.083-921-1125

心理

文化 時間

入場無料
(予約不要・定員200名)

※駐車場に限りがございますため、公共交通機関のご利用をできる限りお願い致します。

講演 大石 繁宏 教授 (ヴァージニア大学心理学部)
「幸福研究の最前線 ー文化・社会心理学的視点からー」
ミシェル・ドボアシユ 准教授 (岡山大学文学部)
「サシャ・ギトリの戯曲と映画における幸福感」

主催 山口大学時間学研究所
共催 日本時間学会
協賛 青山拓央准教授 (山口大学時間学研究所)
協賛 山口大学時間学研究所
TEL 083-933-5848
E-mail jikann@yamaguchi-u.ac.jp
HP http://www.rits.yamaguchi-u.ac.jp/